

## 綾瀬市立寺尾小学校

研究テーマ：『主体的に向き合い、高め合う子』

～自分の考えをもつことと、友だちとの学び合いを大切にした授業を通して～

### 1 実践の目的

本校の児童は素直でどの学習も意欲的に取り組もうとする。また地域特性から様々な国とつながりをもつ児童もおり、言語や文化などが違う多様な他者に対しても、それを受け入れながら、ともに過ごそうとする姿も見られる。

しかし試行錯誤したり、考え続けたりする力に課題がある。また物事をいろいろな視点で見て考えることが十分ではなく、短絡的な判断をし、行動を決定してしまう様子が見られる。さらに他者とのかかわりの中から学びを深めることが十分でない。

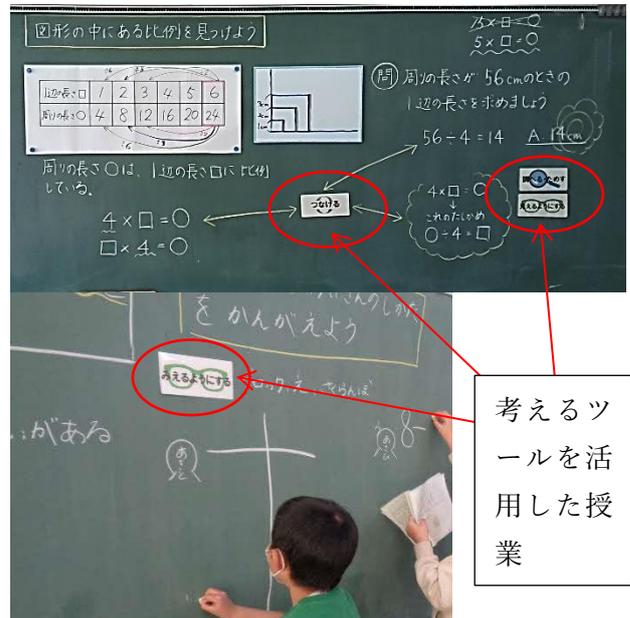
そこで、研究主題を『主体的に向き合い、高め合う子』とし「自分の考えをもつことと、友だちとの学び合いを大切にした授業を通して」研究を行い、「言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力」「多面的に物事を見、根拠をもって判断する力」「自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力」の3つの資質・能力を育成することとした。

### 2 実践の内容

(1) 「考えるツール」を活用した授業改善

①言葉をてがかりにする②つなげる③見えるようにする④調べる・ためす⑤分ける⑥比べる⑦聞く・話すの7つのツールを活用させることで、児童自身が、これまでの経験や既習事項の内容等から自分の考えをもち、現状では解決できないと考えられる問

題や未習・未知の問題に出会っても、粘り強く問題解決に取り組めるようにした。

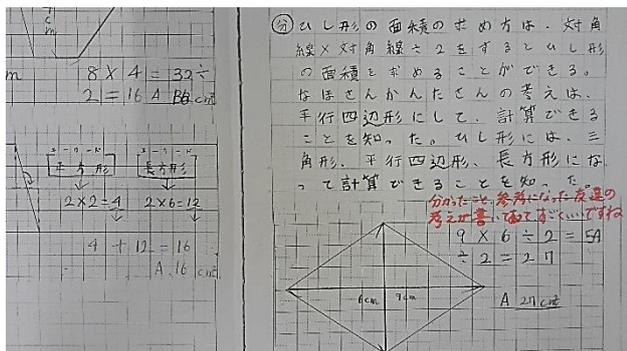


(2) 授業スタイルの共通化

「あやせ授業モデル」「あやせノートモデル」を教室に掲示した。授業モデルの中の「考えを広げる・深める」段階では、ペア学習やトリオ学習、グループ学習を取り入れ児童同士が考えをアウトプットできるようにした。



また振り返りを児童にしっかりと文章表記させるようにした。



### (3) 研究授業と講師による講義

校内研究授業では、低・中・高学年・特別支援学級で1回ずつ合計4回研究授業を行った。校内研究に向けては、全職員で教材研究を行い、どのような学び方が児童をより主体的にさせるのかや、身に付けたい力の確認を行った。

授業後と夏休みには、講師から児童に身に付けていきたい資質・能力をどのような学び方で育むのかという視点で講義をいただいた。

## 3 実践の成果

### ○考えるツールを活用した授業

図1 設問3「考えるツールは考える時に役に立つと思いますか」に対する回答 (%)

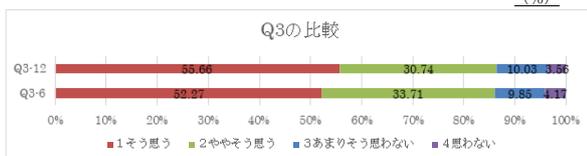
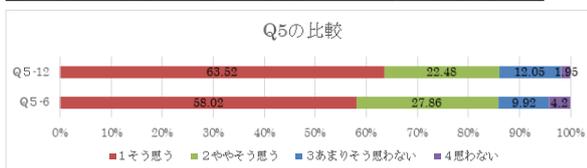


図2 設問5「考えるツールをこれからも使いたいですか」に対する回答 (%)

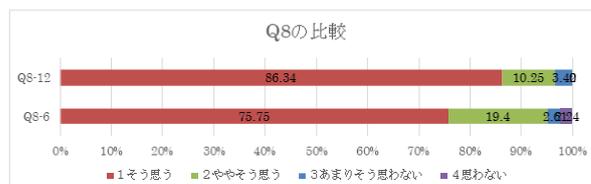


上の図は、6月と12月に行った児童の意識調査の結果である。多くの児童が考えるツールの有用性を感じていることがわかる。肯定的な回答をした児童の書いた理由の記述には、「やり方がわからない時、ツールのような考えをしてみるとわかることが

多いから」「考えるツールがあると答えが思いついたり、友だちに説明する時のアイデアになったりする」など、課題解決時に躓いても考えるツールを活用して自らの力で問題に取り組もうとする意識が高まっていることが分かる。

### ○授業スタイルの共通化

設問8「友だちの考えを聞いたり自分の考えを話したりすることは大切だと思いますか。」に対する回答 (%)



また、多くの児童が友だちとの学び合いの大切さについて肯定的に回答している。理由の記述には、「友だちになれるし、もっと仲良くなれるし、自分だけより勉強ももっとわかるからです」「友だちの考えが、次に自分が考える時のヒントになることが多いから」があり、認め合ったり自分の考えを伝えたり聞いたりして考えを深めていくよさを感じながら学んでいることがわかる。

## 4 今後の展開

今後はモデルを活用した授業をさらに推進し、あやせノートモデルにある、振り返りのポイントに沿った振り返りの記入を行っていく。その中で、「自身の授業の展開の仕方」「子どもにどのような力をつけると、モデルにそった授業になるのか」という視点で授業を見つめなおし、本校児童に必要な実践や視点・考え方をボトムアップで生みだしていきたい。

また、児童のよりよいノートを全学年全クラス、各月の児童のノートの中で、よりよいものを掲示することで、児童に振り返り方についての意識を高めていきたい。